

# 2020年、春の断章

✿ ✿ ✿  
信州・上田仮説サークル やなぎさわかつひろ 柳沢克央

## ◆過ぎ去りゆく春を詠む

学舎に生徒来ずとも花は咲く 黒船の春に散りゆく  
桜かな 学舎に生徒来ずとも育ちゆく 私の居る処で  
学ぶ新世紀 学舎の解体過程散る桜 ますくにまいそ  
ちりぬるを わかよたれぞつねならむ…

✿ ✿ ✿

## ◆なんでもないようなことが…

毎日、年間行事予定表通りに、淡々と、そして生き  
生きと運動する原子たち。

少し前まで、コンサートも、ホール寄席も、運動部  
の各種試合も、仮説関係のフェスティバルも予定通り。  
…じつに平和であった。

…アタリマエと思っていたが、アタリマエではなかつた。とても、とても、ありがたいことだったのだ。  
もしもファインマンが生きていたら、何と言うかな…、  
板倉先生が生きていたら…。失われて初めて、集団教育の意義が再発見されるとすれば歴史的アイロニーだ。

✿ ✿ ✿

## ◆恋に似たもの

職掌から、SSH 関係の研究法論を読む (SSH…要検索)。  
その中の過程として「仮説を立てる」という言い回しが散見される。

一読してそういう文章はアヤシイと思う。

なぜなら、仮説実験授業を受けている時、「仮説を立てよう」と思ったことがないからだ。

「恋をしようじゃないか!」という歌詞を聞いたとき、

「そんなこと言われてする恋なら、ニセモノなんじゃないか?」と思った。

同じように、会議などで「この問題を科学的に考えると…」と言っている人の話を聴いても、「なるほど科学的だ」と腑に落ちたことはない (…と思う)。

たぶん、「科学的○○…」という、もっともらしい呼び名で、致命的にオカシイ論理を知っているため、自分の中に「バカの壁」をつくっているのかな…。いや、それだけじゃないと思う…。板倉聖宣『科学的とはどういうことか』(仮説社)を再読してみようか…。

✿ ✿ ✿

## ◆図書館論とその拡張

学校図書館は情報の「収集・分析・加工・発信」の拠点である。書齋も、学校も、そして、今や、スマートフォン等の情報機器が使えるれば、どこでも…。そういう時代になった。

校舎は本当に必要? 学歴って意味あるの? 会社ってなに? 組織ってなに? 法律ってなに? 民主主義ってなに? 国家ってなに? 戦争ってなに? 平和ってなに? 人間ってなに? 真理ってなに?

✿ ✿ ✿

## ◆「守株」とグラフ

「ウサギが切り株に頭をぶつけて転がる」なんて、そうそうあることではない。それがわからないから頻度の予測を誤り、笑いものになる。確率・統計は大事だな。

日露戦争で勝てたことは、僥倖であったのに、自国の実力を過信して、トンデモナイ災厄を招いた。

そして、戦後日本の復興と経済的発展とは、どうも戦略に基づくものではなかったらしい。懲りないなあ。

「…だから、グラフを描くときも、〈面白い数表があるぞ〉程度の動機で始めると…」『いや、意欲は大切にしないと…』《たくさん描いていくうちに、見る眼がで

きるんだよ》[目的は良いグラフを描くことではなくて、想像力を働かせること、という考え方もあるんじゃないの?]……そうやって、互いに絡み合って進んでゆく。なんと楽しいことではないか。



#### ◆「勸酒」

于武陵（唐代）の名詩を井伏鱒二が七五調にした。「ならば…」と類推し、井伏鱒二の七五調を和歌にしてみた。テーマは折り紙付き。みそひと文字の束縛形式も定評がある。「一定水準以上の出来」になることは歴史的に保証されているようなものだ。

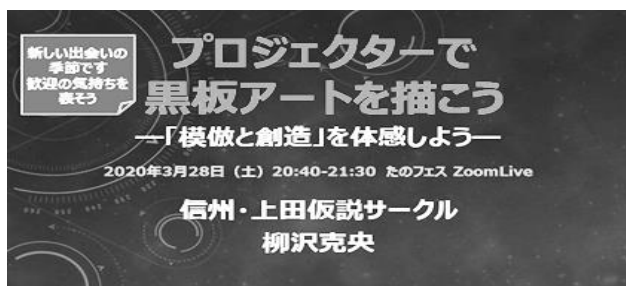
「さあ飲めよたっぷり注ぐぜ嵐来て花が散ったらお終いさらば」（今春、克央臨詠）千年を超える言葉の旅。ベテラン国語科教師参名に披露し、参名揃っての「お墨付き」を得た。

えっ?もっと圧縮しろって? じゃあ言おう。「一期一会」。う〜ん、思いが重い。



#### ◆突如、「ネットピア」構想が実現した3月末の驚き

ユーは否定語。トポスは場所。ゆえにユートピアは想像の産物。「フェスティバルができなくなったから、サイバー空間でお祭りを楽しもう」という構想と実行力が素晴らしい。【↓3月28日（土）ナイターのパワーポイントより】



あのとき、たしかに、Zoomの中に、お祭りがあった。空間を越えてのコミュニケーションは私たちの切なる希望だ。「たのフェス ZoomLive!」楽しかったです。岡崎則武さん、小林真理子さんはじめ、関係者のみなさま、ありがとうございます。



#### ◆「編集委員会ニュース」で「温故知新」

『たのしい授業』（1991年11月号・No109）に「もしも学校が週休6日だったら…」という記事があったことを思い出し、さっそくバックナンバーを取り寄せた。「2020年の現在にこそ、いま求められている論理」がそこに記されていた。

『たのしい授業』畏るべし。これができたのは、「あのな検索」のおかげ。「あのな検索」スバラシイ!



#### ◆「頂点」の背景

1970年前後のごく限られた期間、ここ日本で、科学教育映画のひとつの頂点が極められた。最高水準の人とモノとカネが集まった。発展期の企業の利潤は適切な形で社会還元される流れをつくった。最適解は教育だ。教育は未来への投資だ。科学技術立国に相応しい映画にカネを注げ。とびきりの良い教育を受け、しかも意欲溢れる人材が集った。フィルムに尺を気にせず、時間と手間をたっぷりかけて、最高の集中力で映画を制作した。歴史に燦然とその名を留める「岩波映画製作所」。

追記、缶ピースを作っていた専売公社（当時）も少なからぬ利潤を得た。「キミも旅行に出かけるときはリトマス試験紙ぐらい持って行ったらどうだい?」（『自然のなかの化学』）という、遊び心が感じられるセリフは、紫煙の中から浮かんできたのだろうか。



#### ◆『発想法かるた』ノススメ

「研究」に行き詰まったA君（高3）が相談に来た。「苦しい!」と言う。じっくり聞いたうえで板倉聖宣『発想法かるた』（仮説社・1992年）を貸した。数日たってA君が返しに来てくれた。「どうだった?」『とても面白かったです』『展望は開けたかな?』『はい、スッ

キリしました。いい「手助け」ができ、A君とヨロコビが共有できたようで、イイ感じ。『発想法かるた』がすごい本であることは、牧野英一さんから教わった。



### ◆どうしよう USB が無くなった！

柳沢（昨年度理科主任）が管理しているべき USB5 本のうち、1本が行方不明であることが判明した。原因は理科主任柳沢の管理不行届である。今年度理科主任 Wさんと相談して「なるべく早く科内で大騒ぎしてみよう」と一致。直ちに理科会を招集してもらい、事実関係を説明した。残念ながら、心当たりがある職員はいなかった。…となれば次の手は、欠席した職員に事情を話して確認をとることだ。これには少し時間が必要だ。

並行して私は県教委に呼び出されて処分される時のことを想像してみた。言い訳として「USB は見当たらないが紛失はしていない」とか「私が責任をとればいいというものではない」と言ってみた場合、どうなるか…と想像していた。

そこへ電話。「X 先生の手元にあるそうです」。胸をなで下ろし、「良かったですね～」と共感してくれる同僚の優しい心づかいに感謝し、涙した（此処は少し筆が走り過ぎているようだ…）。

おかげで小咄のネタが一つ増えたので、今回は結果オーライとしよう。そして、Xさんから「俺、1本持っているからね」と聞いたが忘れていた自分の浅はかさはひそかに棚の上に上げておくことにするのであった。「転んでもシメタ」が生きるエピソード。



### ◆『日本経済新聞』ノススメ

通勤途中のコンビニで日経を買って始めてひと月半。地方紙は家で、全国紙は学校で読む。「現代の黒船＝ダイヤモンド・プリンセス号」来航以後、「何か足りない

な…」と思ったので、日経を買って読んだら、けっこう読める記事もある。たとえば、3月17日（火）にはすでに「トリアージに備えよ」との記事が載っている。

一カ月先が読めるのだから、時節柄、経営者は必読だろう。経営者の考え方を知ったうえで進路指導をしたい教師も必読だろう…と類推し実行している。

日経の価値は高いと思う。しかし、さて、いつまで続けようか…。



### ◆『みなと同じ』でなくてよかった

大手教育産業が前のめり的に高校用のシステムを構築していたのは知っていた。今回の危機的状態が引きがねとなってアクセスが集中し、案の定、この在宅学習支援システムは機能不全になった。「みんなと同じ」が嫌いな私たち化学科は、最初から別の道を選んだ。

選択肢が多いことは良いことだ。少数派はスイスイだ。リスク回避の方法として分散が有効な手段の一つであると体感した。しかし、成果はまだまだこれから。



### ◆『不可視』信ずる、みなで信ずる

ウィルスは小さすぎて目に見えないのに、みんな信じて必要な行動をとっている。原子論はウィルス以前の問題だが、ウィルス説以上の信憑性を獲得していないように見える…、ような気がするのはボクだけ？



### ◆結びに…

気がつけばサヴァイヴアルの世始まりぬ 大会はなぐとも日々を生き抜こう ポイントは俯瞰・検索・メタ認知・想像力と仮説実験 最後までお読みいただきありがとうございます



以上、I・Yさんふう。〔2020年4月16日（木）早朝・マシンガンの如くに湧出〕本年度もよろしく願います。文責在筆者、妄言多謝。